

青森県総合社会教育センター運営協議会（令和２年度第２回） 議事録（要旨）

1 日 時

令和３年２月２２日（月曜日）１３時３０分～１５時３０分

2 場 所

青森県総合社会教育センター４階 第２教材開発室

3 議 題

(1) 令和２年度事業実績及び令和３年度事業計画について

ア パワフルAOMORI！創造塾

イ 大学生とカタル！キャリア形成サポート事業

ウ 家庭教育応援隊養成講座

エ 青森で生きる未来人財育成事業

オ 家庭教育支援動画制作普及事業

(2) 令和２年度青森県総合社会教育センター管理運営状況について

(3) 総合的な意見交換

4 出席者

〔委 員〕（敬称略）

戸塚委員、小山田委員、茂木委員、上原委員、吉田委員、阿部委員、柳田委員、勝野委員、横山委員、小関委員、高橋委員

〔県総合社会教育センター〕

児玉所長、福津副所長、工藤総務課長、山本育成研修課長、佐藤教育活動支援課長、久野主査、對馬育成研修課副課長、石岡教育活動支援課副課長

〔豊かな学びを育む青い森グループ（指定管理者）〕

黒滝事務局長、木下学習支援グループ主任

5 議事録

※議事に先立ち、所長より挨拶があった。

《議題(1) 令和２年度事業実績及び令和３年度事業計画について》

※事務局よりア・イの事業について説明

【委員】

オンラインツールを利用した事業に興味があり、パワフルAOMORI！創造塾と持続可能な地域づくりのためのネットワーク会議を視察した。

パワフルAOMORI！創造塾の視察では、ものがたり法人FireWorksが制作した地域おこしの動画に感動し、塾生がこの後どのように成長するのか、楽しみに感じた。

持続可能な地域づくりのためのネットワーク会議の視察では、地域の方の地元に対する思いを知ることができ、その思いが興味のある人に伝わって、若い人にも関わってほしいと思った。

【委員】

パワフルAOMORI！創造塾で、今回の塾生は、役場職員や民間企業社員等多様な職種により構成されている。公務員は民間企業の方と交流する機会が少ないので、この事業ををきっかけに、交流の輪を広げてほしい。

大学生とカタル！キャリア形成サポート事業を視察したが、夏の暑い中、大学生がよく頑張ってワークショップを実施していた。コロナ禍の中、工夫して少しでも事業を実施するという姿勢に頭が下がる。今しかない高校生活を大切に考え、今後も青森県の子どもたちを育ててほしい。

【委員】

自分は、コロナ禍で何も出来ずに過ごした1年だったが、社会教育センターでは、実施方法をオンラインに切り替えるなど、前向きに事業を実施している様子うかがえた。

オンライン受講により、参加者の間口が広がり、気軽に参加できるようになれば良い、と思う。

【事務局】

コロナ禍により、事業実施に当たって、当初の計画から組み直した。パワフルAOMORI！創造塾では、オンライン実施にすることで、遠方の参加者もいた。受講者のターゲットをどのようにしていくかなど、各委員の意見を参考にしながら進めていきたい。

※事務局よりウ・エ・オの事業について説明

【委員】

寺子屋オンラインでは、誰がどのように小学生を補助したのか。

【事務局】

保護者が準備をした上で、小学生が参加していたが、小学生はZOOMの操作に慣れている様子だった。

【委員】

今別町では、パソコンを持っている家庭と持っていない家庭があり、児童がZOOMの操作に慣れているとは言えない状況にある。オンライン操作については、先生方の研修も進んでおらず、課題となっている。

【委員】

GIGAスクール構想により、1人1台の端末だけでなく、学校内のネットワーク環境もかなり充実していく中で、社会教育センターの活動も含めて、オンラインの活用が啓蒙され、スキルが上がり、それがまた学校教育でのオンライン技術の向上を後押しする形になる。

【委員】

寺子屋オンラインについて、親がサポートできない家庭もあることから、放課後子ども教室や学童の場とオンラインでつながり、色んな人と交流できれば、子ども達の自己肯定感も上がると思う。

【委員】

寺子屋オンラインの実施に当たって、トラブル等はなかったか。

【事務局】

トラブルはなかった。

寺子屋について、今年度は大学生を放課後子ども教室に派遣して実施する予定であったが、コロナの影響により、オンラインという形になった。色んな実施方法を考えていかなければならない、と思っている。

《議題(2) 令和2年度青森県総合社会教育センター管理運営状況について》

※指定管理者より説明

【委員】

「てのひら」は、何部印刷しているのか。

【事務局】

年6回、毎回1万部印刷している。

【委員】

どんな所に配布しているのか。

【事務局】

主に連携機関約500箇所に郵送し、配付している。発送作業は、ボランティアにお願いしている。

【委員】

学校の統廃合により使用していない校舎を利用して、「ギャラリー画伯のたまご」のような所が地域にあれば、子どもを気軽に連れて行ける、と思った。

【委員】

コロナ禍で、子どもを連れて行く場所がない中、子ども向けのイベントを開催してくれたことをありがたく思う。今年度は生涯学習フェアを中止したが、全国的に見るとオンラインで実施しているところもあるので、検討してほしい。

縄文遺跡群の世界遺産登録の機運が高まる中、周囲はあまり関心がない感じを受ける。縄文時代の知恵を学んだり、ものづくりをしたりするような講座があったらうれしい。

《議題(3) 総合的な意見交換》

【委員】

説明資料を作成するに当たって、講師がどんな話をしたのか、どんなワークショップが行われたのか、アンケートの内容はどうだったのか等、結果だけでなく、その過程も組み入れてほしい。

【委員】

説明資料の中に、総括する部分があると良い。

今年度の事業の達成率はどれくらいか。

【事務局】

これまでと実施方法を変えたものの、ほとんどの事業について、実施できたと思う。

【委員】

次年度もコロナの状況は続く可能性があり、オンラインでも対面でも両方で実施できる体制が必要だと考える。

高校生や大学生が参加している事業があるが、学生にとってのメリットはあるのか。

【事務局】

高校生スキルアッププログラム推進事業において、高校生がボランティア活動や講座受講についてレポートを提出すれば、単位認定している。

大学生とカタル！キャリア形成サポート事業では、大学生に本事業を実施するための心構えやワークショップ演習等の研修を事前に実施した上で、実際に学校に行って実践した後、弘前大学等それぞれの大学で単位認定してもらっている。今年度は、コロナの影響で、一部の高校から中止したいとの申し出があったことから、高校で実践する機会が減り、大学生の単位認定ができなくなる可能性が出てきたことから、急場でオンライ

ン企画を開催し、単位認定につなげたという経緯がある。

【委員】

来年度実施するあおもり家庭教育力向上事業では、東青地区と三八地区だけに限定せず、オンラインでも同時に配信すればいいと思う。この事業は非常に重要だと思うので、受講者数を上げるためにも計画をしっかりと立ててほしい。児童相談所や各教育事務所など関係機関に太いパイプを持った上で、事業を進めてほしい。

【委員】

事務局の説明を聞いて、オンラインを利用した色んな活用方法があることを知った。コロナによる制約がある中でこれだけ事業を実施できたことは、素晴らしい。

【委員】

公民館事業は、準備しても結局は中止になる、という繰り返しの1年だった。その中で、今回説明のあった事業は、立派に仕上がっていると思う。コロナの中で取りうる手段としてオンラインは有効なツールだと思っているが、地区の公民館でオンラインにより実施しようとしても、機械の操作に不慣れな住民も多く、結果として、中止した事業の割合は高かった。

今後、コロナが心配なくなったとしても、オンラインを活用し、活動できる場を広げていきたい。

《議題(3) その他》

なし

※以上により議事終了